

働かない働き蟻

北大大学院農学研究科長谷川先生らの研究チームによると、働き蟻の中にも働かない蟻がいるのだそうです。

全体の蟻の中で1～2割が、何もせずじっとしていたり、巣の中をうろうろするばかり。エサは、エサを集めてきた働き蟻から口移しでもらっているとのこと、まるで、表現は悪いですが「ひも」のような生活ぶりです。

イソップ童話でも、怠け者のキリギリスに対して堅実に働く蟻のことが描かれています。怠け者の働き蟻の存在はかなりのイメージダウンです。同時に、いずこの世界も同じだなという感じでもあります。

我々人間の世界でも組織の中を見ると、だいたい2割くらいの職員は働かない、あるいは働きが悪い、というのが相場のようなようです。この働かない職員を如何に働かせるかが、リーダーの悩みの種とってよいでしょう。

ただ、優秀な人間ばかりを集めれば良いかということ必ずしもそうではないようで、優秀なものばかりを集めてみても、やはりその中の2割は怠け者になるという話もあり、なかなか難しいものです。

長谷川先生によると、「優秀な個体だけでは、その集団の生産性は最大にならないということが分かってきており、働かない蟻にも何らかの役割があるのではないか」とのことです。

確かに、この世の中に無駄な人などというものは存在しないわけで、組織も所詮は人の集まりですから多様な人がいてこそ生き活きとしたものになると考えるべきでしょう。

仕事はあいつに任せれば大丈夫だというような優秀な職員がいる一方、いてくれるだけで職場が明るくなるとか、仕事はできないけれど宴会のセットをさせると抜群だとか、実際、自分の経験からしても、腹の立つことがあるにはありましたが、色んな人との出会いは面白いものだと思います。

人を組織に合わせることばかり考えるのではなく、組織が人それぞれの良いところを見出し、その力を旨く活用していく、これが組織を預かるリーダーの大きな責任であり役割だと思います。(塾頭 吉田 洋一)